

第1回内国勧業博覧会の歯科出品物とその審査結果*

大橋 正敬** 仁平真佐秀** 後藤 尚久**
長谷川 清** 小田 邦雄** 臼井 潔**
竹井 満久** 片山幸太郎**

1. 緒 言

わが国に西洋歯科医学が伝来してからわずか100余年にすぎないが、歯科医学の発展とともに、歯科器材は実に驚異的な発達を遂げた。その発展過程を知る資料として明治初期の資料はきわめて乏しい。明治10年8月21日より11月30日まで、東京上野公園で、政府主催の第1回内国勧業博覧会が開催され、歯科用品も出品されたが、その資料は当時の歯科器材の実状を知る上できわめて重要な資料であるにもかかわらず、今日までわずかに谷津ら¹⁾がその出品解説について報告しただけである。著者らは、さらに同博覧会事務局編集の記録を主な資料として歯科出品物とその審査結果について新しい史実を明らかにすることができたので報告する。

2. 研究資料と方法

明治10年内国勧業博覧会出品目録²⁻⁶⁾、同出品解説⁷⁻⁸⁾、同賞牌褒状授与人名表⁹⁾および同審査評語¹⁰⁻¹¹⁾を主な研究資料として、同博覧会の歯科出品物を調査し、歯学史的考証を試みた。

出品目録は4冊よりなり、3冊は開催前3日までに到着した各省庁および府県別に出品物を収録したもので、他の1冊はそれ以後のものを収録した追加編である。出品目録の最初に本博覧会の区

類略表があり、出品物の分類が明らかにされている。すなわち、第1区鉱業冶金術、第2区製造物、第3区美術、第4区機械、第5区農業、第6区園芸の6区に大別され、さらに各区は類別に細分された。歯磨は第2区第1類化学上の製造物、歯科器材は第2区第12類医術上の用器のなかに類別された。従って本研究は前記資料中の第2区第1類および第12類について調査を行なった。

3. 歯学史的事項

3.1 出品目録

3.1.1 歯科器材

東京府からの歯科器材の出品(図1)²⁾は次の

被除器(二) 〇人工鉄鉗(五) 〇尿道鏡 開器(六) 〇咽喉鏡(七) 〇熱氣吸入器 鼻鏡(八) 〇足浴器(九) 〇手浴器(一〇) 〇英製歯水(二) 〇英製歯粉(三) 〇英製歯膏(四) 〇英製歯油(五) 〇英製歯油(六) 〇英製歯油(七) 〇英製歯油(八) 〇英製歯油(九) 〇英製歯油(一〇) 〇英製歯油(一一) 〇英製歯油(一二) 〇英製歯油(一三) 〇英製歯油(一四) 〇英製歯油(一五) 〇英製歯油(一六) 〇英製歯油(一七) 〇英製歯油(一八) 〇英製歯油(一九) 〇英製歯油(二〇) 〇英製歯油(二一) 〇英製歯油(二二) 〇英製歯油(二三) 〇英製歯油(二四) 〇英製歯油(二五) 〇英製歯油(二六) 〇英製歯油(二七) 〇英製歯油(二八) 〇英製歯油(二九) 〇英製歯油(三〇) 〇英製歯油(三一) 〇英製歯油(三二) 〇英製歯油(三三) 〇英製歯油(三四) 〇英製歯油(三五) 〇英製歯油(三六) 〇英製歯油(三七) 〇英製歯油(三八) 〇英製歯油(三九) 〇英製歯油(四〇) 〇英製歯油(四一) 〇英製歯油(四二) 〇英製歯油(四三) 〇英製歯油(四四) 〇英製歯油(四五) 〇英製歯油(四六) 〇英製歯油(四七) 〇英製歯油(四八) 〇英製歯油(四九) 〇英製歯油(五〇) 〇英製歯油(五一) 〇英製歯油(五二) 〇英製歯油(五三) 〇英製歯油(五四) 〇英製歯油(五五) 〇英製歯油(五六) 〇英製歯油(五七) 〇英製歯油(五八) 〇英製歯油(五九) 〇英製歯油(六〇) 〇英製歯油(六一) 〇英製歯油(六二) 〇英製歯油(六三) 〇英製歯油(六四) 〇英製歯油(六五) 〇英製歯油(六六) 〇英製歯油(六七) 〇英製歯油(六八) 〇英製歯油(六九) 〇英製歯油(七〇) 〇英製歯油(七一) 〇英製歯油(七二) 〇英製歯油(七三) 〇英製歯油(七四) 〇英製歯油(七五) 〇英製歯油(七六) 〇英製歯油(七七) 〇英製歯油(七八) 〇英製歯油(七九) 〇英製歯油(八〇) 〇英製歯油(八一) 〇英製歯油(八二) 〇英製歯油(八三) 〇英製歯油(八四) 〇英製歯油(八五) 〇英製歯油(八六) 〇英製歯油(八七) 〇英製歯油(八八) 〇英製歯油(八九) 〇英製歯油(九〇) 〇英製歯油(九一) 〇英製歯油(九二) 〇英製歯油(九三) 〇英製歯油(九四) 〇英製歯油(九五) 〇英製歯油(九六) 〇英製歯油(九七) 〇英製歯油(九八) 〇英製歯油(九九) 〇英製歯油(一〇〇)	〇英製歯油(一〇一) 〇英製歯油(一〇二) 〇英製歯油(一〇三) 〇英製歯油(一〇四) 〇英製歯油(一〇五) 〇英製歯油(一〇六) 〇英製歯油(一〇七) 〇英製歯油(一〇八) 〇英製歯油(一〇九) 〇英製歯油(一一〇) 〇英製歯油(一一一) 〇英製歯油(一二二) 〇英製歯油(一二三) 〇英製歯油(一二四) 〇英製歯油(一二五) 〇英製歯油(一二六) 〇英製歯油(一二七) 〇英製歯油(一二八) 〇英製歯油(一二九) 〇英製歯油(一三〇) 〇英製歯油(一三一) 〇英製歯油(一三二) 〇英製歯油(一三三) 〇英製歯油(一三四) 〇英製歯油(一三五) 〇英製歯油(一三六) 〇英製歯油(一三七) 〇英製歯油(一三八) 〇英製歯油(一三九) 〇英製歯油(一四〇) 〇英製歯油(一四一) 〇英製歯油(一四二) 〇英製歯油(一四三) 〇英製歯油(一四四) 〇英製歯油(一四五) 〇英製歯油(一四六) 〇英製歯油(一四七) 〇英製歯油(一四八) 〇英製歯油(一四九) 〇英製歯油(一五〇) 〇英製歯油(一五一) 〇英製歯油(一五二) 〇英製歯油(一五三) 〇英製歯油(一五四) 〇英製歯油(一五五) 〇英製歯油(一五六) 〇英製歯油(一五七) 〇英製歯油(一五八) 〇英製歯油(一五九) 〇英製歯油(一六〇) 〇英製歯油(一六一) 〇英製歯油(一六二) 〇英製歯油(一六三) 〇英製歯油(一六四) 〇英製歯油(一六五) 〇英製歯油(一六六) 〇英製歯油(一六七) 〇英製歯油(一六八) 〇英製歯油(一六九) 〇英製歯油(一七〇) 〇英製歯油(一七一) 〇英製歯油(一七二) 〇英製歯油(一七三) 〇英製歯油(一七四) 〇英製歯油(一七五) 〇英製歯油(一七六) 〇英製歯油(一七七) 〇英製歯油(一七八) 〇英製歯油(一七九) 〇英製歯油(一八〇) 〇英製歯油(一八一) 〇英製歯油(一八二) 〇英製歯油(一八三) 〇英製歯油(一八四) 〇英製歯油(一八五) 〇英製歯油(一八六) 〇英製歯油(一八七) 〇英製歯油(一八八) 〇英製歯油(一八九) 〇英製歯油(一九〇) 〇英製歯油(一九一) 〇英製歯油(一九二) 〇英製歯油(一九三) 〇英製歯油(一九四) 〇英製歯油(一九五) 〇英製歯油(一九六) 〇英製歯油(一九七) 〇英製歯油(一九八) 〇英製歯油(一九九) 〇英製歯油(二〇〇)
--	--

図 1

* Dental products exhibited at the First National Exposition for the Encouragement of Industry and their evaluation

** MASAYOSHI OHASHI, MASAHIDE NIHEI, NAOHISA GOTO, KIYOSHI HASEGAWA, KUNIO ODA, KIYOSHI USUI, MITSUHIKA TAKEI and KOTARO KATAYAMA: Department of Dental Materials, Nihon University School of Dentistry 日本大学歯学部理工学教室

の出品は（２）象牙を削除したので４種

なお、正誤表(図4)⁵⁾より神翁金松

三乘二 四金
典內來
家千代重一（下注）國二（同）
御名屋（同）○菓子重三○酒盆三（同）○硯箱四○茶
盆五元○菓子盆形（同）○立出盆七○團座
手腰二角半（表裏折込）
徳仲勢山形二九形（同） 安福竹三郎
○鍋三○栢盆四○菓子器五元○角切皿七
○皿九○懷中盆九○六角菓子器二○船
形盆三○九平菓子器三○加子形振出三
○傘入二○茶托（餘計）○和入菓子器六
湯吞二七○煎茶盆八（餘）○鍋削形者碗九（二）
酒盆二○清泉盆二○南瓜形菓子器二○盆三
耳碗器四三真盛上等白（同） 阿谷 惣助
國友知和子古銅器四門竹明皿○コウモウキ六○
鍋六兵衛器四門重盆四下等

打鈴器四角丸○膳（器）四八寶漆白テウ○舌
押皿九○予首鏡五元真盛白○子器盆五○開
合匙五二○九樂匙五○カアイヤル（五元）男女
○スボイト（五元）五五
○インコキリ六○ヒストロス六○メス三
甲盆二
○鉄六六長四寸六分七厘四厘半
○商拔七○口中三ツ道具 銀針銀箸○三棧針
七二荷

男上下總盆二（表裏折込）
男名店
門前皿○女上下總盆二（同） 藤井重右衛門
八箇云○男三箇七○女四箇八○同總盆を
○風呂二（同） 新形

鉢三樽用二樽四樽即部新材（同） 丸山久太郎
鉢七二樽即部新材（同） 阿谷 惣助
盆知和子古銅器四門竹明皿

图 3

[illegible]

图 2

[illegible]

图 4

の出品であった。

松岡直蔵 萬町

入歯 (1) 黄楊, 象牙

関口栄蔵 小伝馬町3丁目

入歯 (1) 黄楊, 蠟石

さらに東京府から次のものが出品した。(図2)³⁾

小野玄貞 麴町5丁目

入歯 (1) 雞嗽木男女用

愛知県から次の2名が出品した。(図3)⁴⁾

岡谷惣助 尾張国愛知郡名古屋鉄砲町

図3でもわかるように多くの医療用器具を出品しているが、歯科用としては次の2種であった。

(69) 歯抜, (70) 口中三ツ道具, 鋼鉄針鎌鋺

藤井重右衛門 尾張国愛知郡名古屋門前町

(1) 男上下総歯, 黄楊, 蠟石

(2) 女上下総歯, 鉄漿染

(5) 男上9歯

(6) 同8歯

(7) 男3歯

(8) 女4歯

(9) 同総歯

(10) 属品, 類形2, 歯8本

藤井重右衛門の出品は(3)と(4)とが欠番になっているので実際は8種出品したことになる。

(3)と(4)の欠番は印刷ミスによるものか, 他の部類に出品したのか, あるいは出品取消しによるものか不明である。

なお, 出品目録にはないが博覧会終了後に編集された出品解説⁸⁾には次のものの出品があった。

桜井熊蔵 越後国蒲原郡亀田町

(1) 彫鑿假歯

3.1.2 歯磨

歯磨の出品⁶⁾は次の通りであった。

遠山タカ 東京浅草並木町

(3) 延寿香, 大坂府下小山宗五郎製造

白井正助 東京南横町

(10) 上歯磨

藤田宗助 東京南伝馬町1丁目

(7) 歯磨

白翁膏(一)東京本町二丁目	湯川三郎兵衛	玉圓(一)東京浅草区〇忘愁	山田清兵衛
梅花香(一)五條〇神功丸(町)	散(二)〇肝毒丸(三)	散(二)〇大補神功丹(三)〇再功散(四)〇神功	高村甚左衛門
涅齒藥(一)浅草並木町二丁目	清音和脚丹(二)〇鎮征(町)	散(二)〇美精水(三)〇洗粉(七)〇齒磨(八)	〇齒磨(八)
齒磨(一)〇紅入(二)〇白	今野勝蔵	開化精(五)〇美精水(三)〇洗粉(七)〇齒磨(八)	〇齒磨(八)
齒磨粉(一)二丁目	駒田幸助	能勝木香丸(一)〇其	毛利彌兵衛
齒磨粉(二)〇赤色(三)〇黄	林新二郎	應神散(一)〇其	和田昌純
齒磨粉(三)〇白粉(二)	廣田徳兵衛	坤王湯(一)〇其	笠原五郎兵衛
〇當り香(三)	齋藤吉次郎	〇當り香(三)	〇當り香(三)
齒磨粉(一)〇其	小笹傳兵衛	九藥(一)〇其	市川磯吉
〇紫金線(三)〇玉聖香(四)	守田治兵衛	〇神功水(五)	波多海蔵
寶丹(一)〇其	〇寶丹(二)〇其	〇寶丹(二)〇其	松岡喜平治

図5

服部藤左衛門 東京本材木町2丁目

(1) 延命散

盛岡吉三郎 東京小網町2丁目

(1) 齒磨, 梅花散香入紅色

横田久七 東京本町4丁目

(1) 清明丹, 煉藥

今野勝蔵 東京愛宕下町4丁目(図5)

(1) 齒磨, 紅入, (2) 同, 白

駒田幸助 東京木挽町1丁目(図5)

(1) 齒磨粉

林新二郎 東京麻布市兵衛町2丁目(図5)

(1) 齒磨粉, 赤色, (2) 同, 黄, (3) 同白

広田徳兵衛 東京通油町(図5)

(1) 齒磨粉, (2) 涅齒藥

齋藤吉次郎 東京本所横網町1丁目(図5)

(1)~(11) 齒磨粉

高村甚左衛門 東京平松町(図5)

(8) 齒磨

池田ソノ 東京橋町4丁目

(1) 茶附子, 細末, (4) 齒磨, 紅入

[illegible]

图 8

[illegible]

图 10

歯科器材の受賞者は次の3名であった。

龍紋賞牌	入齒	渡辺良斉 (図7)
褒 状	入齒	竹沢国三郎 (図8)
褒 状	入齒	神翁金松 (図8)

歯磨の受賞者は次の2名であった。

花紋賞牌 齒磨 盛岡吉三郎 (図9)
褒 状 齒磨花王散及香水油
波多海蔵 (図10)

3.4 審査評語^{10~11)}

3.4.1 歯科器材

第2区第12類医術上の用具については次の人々が審査を行なった。

審査官部長	町田 久成
同	大鳥 圭介
審査官	大西 秀春
同	近藤 真琴
同	矢田堀 鴻
同	藤島 常興
同	塩田 真
同	石田 為武
同	朝日 升
同	篠原宗四郎

歯科器材関係受賞者に対する評語はそれぞれ次

[illegible]

图 9

項で「……，白焼角粉，……」が「……，白焼鹿角粉，……」に，梅井源之助の用科の項で「……鮫牙，……」が「……，鯊牙，……」と訂正になっている。

3.3 賞牌褒状授与人名表⁹⁾

出ス所ノ諸器械皆熟練ナリ諸ヲ給テ顧ルニ仰カザルニ至ルベキヲ信ス
 記紋 混着器極類微細器械
 今時有用ノ器械ヲ撰ヒテ製造ス皆精細奇巧頗ルノ
 全 入商 神田旅籠
 町二丁目
 各種共ニ製造極メテ精巧ニシテ他ニ比ナキヲ觀ル
 全 打診鑢診檢脉器械及醫家諸器械
 元町北
 本邦ニ於テ始テ打診鑢診ノ器ヲ製シ出ス且其他出ス所ノ器械皆精巧ナ極ムル者ナリ
 本町三
 紋紋 醫家諸器械
 出ス所ノ諸器械ノ中極メテ精巧ナル者ヲ見ル
 具宛集備ハレリ用意最モ速ニ大可ス
 下谷二
 長町
 全 絞織器形裝外器器械
 根本市左衛門ノ出品中ニ觀ル製作精巧ニシテ用ニ適ス且進歩ノ功アリ
 小石川
 掃除町
 全 裁縫機織器人工織針咽張機
 根本市左衛門ノ出品中ニ觀ル製作精巧ニシテ用ニ適ス且進歩ノ功アリ
 石川六郎
 桐蔭齋三郎

图 11

全	入齒
頗ル歩ノ狀アリト謂フ可シ	
全	紙淘染統
紙質黒深ニシテ堅韌ナリ其印紋鮮明之ヲ押留セラルモ、越縫ニ失スト雖ハ稍古様アルヲ觀ル以テ家々ノ貯蔵ニ供スベシ又書家ノ筆墨匪ヨ換ユルモ可ナリ且其價格ノ廉ナル趣屬ノ製ナルヲ識ス	
花紋	霞裝外科器械
製作精巧用ニ適スルヲ觀ル	
窓狀	彈丸板
其用ニ適ムルヲ觀ル	
全	鴛鴦ブーシー
其用ニ適スルヲ觀ル	
本石町 三丁目	金杉村
神翁 金松	關 岩五郎
佐々木治兵衛	奈瓦彌左衛門
綾田卯一郎	

二區十二類 三百六十九

图 13

石代重兵衛ノ出品中ニ觀ル製作精巧用ニ適ス大ニ其業ニ通歩スル者ト謂フ可シ

花紋 藥汁電氣機

石代重兵衛出品中ニ觀ル尤用ニ適ス

彩狀 蒸氣吸入器

石代重兵衛出品中ニ觀ル頗ル用ニ適ス

全 千宮鏡

石代重兵衛出品中ニ觀ル頗ル用ニ適ス

全 蒸氣吸入器

松本市左衛門出品中ニ觀ル頗ル用ニ適ス

全 妊娠腹帶

松本市左衛門出品中ニ觀ル頗ル用ニ適ス

全 入函

頗ル進歩ノ振アリト謂フ可シ

東京淺草 新谷町

中ノ樂 原庭町

北東 仲町

本石町 一丁目

本町三 丁目

宇田 川町

新井 清吉

清水辰五郎

行田榮次郎

金崎 虎藏

石川 米太郎

竹澤國三郎

三百六十八

图 12

のとおりであった。

龍紋 入歯 神田旅籠町2丁目

渡辺 良斉

各種共ニ製造極メテ精巧ニシテ他ニ比ナキヲ
觀ル。(図11)

褒状 入歯 宇田川町

竹沢国郎三

頗ル進歩ノ状アリト謂フ可シ。(図12)

褒状 入歯 本石町3丁目

神翁 金松

頗ル進歩ノ状アリト謂フ可シ。(図13)

3.4.2 齒 磨

第2区第1類化学上の製造物については次の人々が審査を行なった。

審査官部長	町田 久成
同	大鳥 圭介
同	宇都宮三郎
審査官	塩田 真
同	石田 為武
同	近藤 眞琴
同	川上 寛
同	村橋 次郎

全	インデコ	二丁目	小 林 儀 行
品位粗ナラズ價亦廉ナリ魅力忘ラズ其除塵期スヘシ			
全	精製インデコ	本所花町	伊藤庄二郎
品位良好其製出チ大ニモバ又世ニ益アルヘシ		二丁目	藤倉祐介
全	齒磨	小網町	盛岡吉三郎
従前ノ製法ニ因テ各種ヲ精製ス小餅トナスモノ殊ニ其便ナルヲ観ル		二丁目	
全	髪油及白粉	本町	下村保三郎
軟固ノ用品中品位他類ニ超ス價値充當ナリ概シテ老舗トス		本町	
全	髪油 檀香 白粉 六ツノ花	下谷町	守田重兵衛
出品中精製ノ髪油ハ炎熱ニ最堪ノ髪油ト稱スベシ白粉モ亦精製ニシテ超群都テ注意		下谷町	
ノ厚キヲ徴ス			
全	白粉 都島香水油 イギリス	形町	中居百助
精製非凡ニシテ價其當ヲ得ル老舗ノ名物ト稱スベシ		形町	

図 14

全	齒磨	村松	高橋テウ
品位適宜能ク需用ノ旨ニ適ヘリ			
全	擦附木	上野花	廣 産 社
製造適宜價亦廉ナリ若シ一層注意シテ染除キ齊一ニモバ亦品位ヲ進ムヘシ			
全	擦附木	寺島	三 友 社
洗手品洗衣品共ニ皆佳ナリ但シ洗手品ノ如キハ今一層注意セバ大ニ其用旨ニ適スヘシ			
全	透明石鹸色石鹸洗滌石鹸	形町	泉 湯 社
品位適宜需用ニ供スヘシ			
全	化粧石鹸、粧墨	大谷	金子盛助
製作宜キヲ得弘ク需用ニ供スヘシ			
全	化粧石鹸、粧墨	船岡	林 庄 九 郎
品位皆佳就中花王散ハ一種齒牙ヲ養フ藥料ヲ合和シ尋常ノモノニ比スレバ自ラ効アリトス			
全	化粧石鹸、粧墨	鍛冶町	波多 海 蔵
品位皆佳就中花王散ハ一種齒牙ヲ養フ藥料ヲ合和シ尋常ノモノニ比スレバ自ラ効アリトス			

図 15

同 岸本 一郎
同 三崎 精輔
同 菅 蒼圃
同 朝日 升
齒磨の受賞者に対する評語はそれぞれ次のとおりであった。

花紋 齒磨 小網町 2 丁目
盛岡吉三郎
従前ノ製法ニ因テ各種ヲ精製ス小餅トナスモノ殊ニ其便ナルヲ観ル。(図14)
褒状 齒磨 花王散、梅ヶ香
東京神田鍛冶町
波多 海蔵
品位皆佳就中花王散ハ一種齒牙ヲ養フ藥料ヲ合和シ尋常ノモノニ比スレバ自ラ効アリトス。
(図15)

4. 考 察

明治新政府は、欧米諸国の産業の発展と強大な軍事力をみて、これらの国々と肩をならべるためには近代的な国家体制を確立することが急務であると考え、富国強兵をその大目標とした。富国す

なわち近代的産業や経済組織を確立して、欧米先進国の水準に早く追いつき、強兵すなわち近代的軍備を完成することで、軍備を近代化するには、当然近代的な工業製品が要求され、強力な軍備をもった近代国家の建設にはまず富国、これが当時わが国近代化の基本概念であった。

このため、政府は、すべて国家資本によって欧米先進国の近代的技術が無条件に導入し、諸産業の近代化と近代機械工業の開発につとめた。さらに政府は、博覧会が富国と殖産興業のために大きな役割をもっていることを認識し、ついに明治10年8月2日より11月30日までの102日間東京上野公園において第1回内国勸業博覧会を政府主催で開催するに至った。明治10年は、旧士族を中心とする保守勢力と大久保・岩倉らの進歩派とが激突した西南の役が鎮圧され、明治政府にとって政治的安定を獲得した重要な年でもあった。

一方、当時の歯科界は西洋歯科医学の導入がはじまったばかりで、日本人のあるものは開業中の外国人歯科医のもとで勉強中であり、あるものは欧米に留学中であつた。小幡英之助が日本人とし

て最初の歯科医師開業免許を獲得したのが明治8年10月で、明治10年には歯科医の数も極めて少なく、歯科医療のほとんどは口中医あるいは入歯師や歯抜きに依存していた時代であった。当時の歯科事情に関する資料は極めて乏しいが、本研究は、政府主催の第1回内国勸業博覧会の公式記録に接することができ、その出品物やその審査結果から当時の歯科事情の一端を明らかにすることができた。

第1回内国勸業博覧会の歯科器材の出品者は13名で、そのうち1名は器具を出品し、他の12名は義歯およびその付属品を出品した。その義歯にしても、竹沢国三郎や神翁金松のように西洋歯科医学を勉強したものはゴム床義歯を木床義歯とともに出品したが、他の人々は黄楊を主とする木床義歯だけであった。器具の唯一の出品者、岡谷惣助は歯抜と口中三ツ道具を出品したが、当時の鉄材と技術よりして手仕事程度であったろうし、また材質的にも防錆の点で不十分なものであったと推察される。

開国歯科医人伝の渡辺良斉¹⁴⁾の項で、「渡辺は彫刻義歯の製作には非凡な技術を持ち名声四囲を圧していた。明治8～9年頃フランス人アレキサンドルが京橋に西洋入歯の業を開くや、その法を研究しようと強い希望を持ったが機会を得るに至らなかった。その頃両国に開業した長谷川保が金充填に長じているので、その口授を受け、渡辺は自己の特技である義歯製作の術を伝えた。」とあるが、彼が木床義歯の製作に長じて優秀であったことは、この博覧会で龍紋賞牌を授与されたことでも実証されるところである。彼がゴム床義歯を出品しなかったのはその技術を当時まだ身につけたばかりで自信がなかったためと考えられる。その後、開業試験に合格し医籍に登録されたいが、その確証はない¹⁵⁾。もし正式に医籍に登録されていたならば、渡辺良斉は歯科医として唯一の出品者ということになる。

ゴム床義歯を出品したのは竹沢国三郎と神翁金松の2名で、竹沢国三郎¹⁶⁾は、明治2年2月に開業し、明治8年7月1日より1年間フランス人歯科医アレキサンドルを自己専属教師として招聘し

て西洋歯科医学を修得し、また明治5年2月に開業した神翁金松¹⁷⁾は同じくアレキサンドルの門に入り西洋歯科医学を修得し、両者ともその技術を生かしてゴム床義歯を出品した。渡辺良斉以外の木床義歯と比べて、両者とも「頗る進歩ノ状アリト謂フ可シ」との評とともに褒状の栄に輝いたのである。両者ともこのように西洋歯科医学を修得し、優秀な義歯製作技術を持っていたにもかかわらず歯科医籍にあがることなく、「入歯歯抜口中療治」の鑑札を、明治18年10月25日に下付され、竹沢国三郎が東京府第42号、神翁金松が同第10号を受けて開業していた。明治27年調査の入歯歯抜営業者人名¹⁸⁾によっても、両者名を確認することができ、この事実が考証された。また、この名簿¹⁸⁾によれば、梅井源之助と小野玄貞の両者もそれぞれ鑑札を受け、前者は東京府第81号を明治18年10月26日に交付され、後者は同第212号を同年12月25日に交付された。

さらに、愛知県鑑札所有者人名¹⁹⁾によれば、藤井重右衛門も「入抜歯」の鑑札を受けていた史実が明らかになった。

義歯出品者中、竹沢国三郎、神翁金松、梅井源之助、小野玄貞および藤井重右衛門の5名は鑑札営業者であったことを考証したが、この5名と渡辺良斉以外の人々については医籍にその名を発見できないので歯科医でないことは明白であるけれども、鑑札営業者であったかどうかの人物考証は今後の研究に期待しなければならない。

歯磨の出品者は21名で、多くは歯科医や口中医の協力や助言を得て製造したものと推察される。褒賞には、名誉之章、龍紋賞牌、花紋賞牌、鳳紋賞牌および褒状の合計5種類ある。渡辺良斉は龍紋賞牌の栄誉に輝き、義歯製作に優れていたのが当然の受賞である。竹沢国三郎と神翁金松の両名は褒状を受けたが、この両名も外国人歯科医の指導を受け、当時最新式の歯科医療を行っていた人達で、常に研究を積んだ成果の現れであろう。ただ、開国歯科医人伝の神翁金松の項に、第1回内国勸業博覧会における彼の受賞した記録がない。本研究によって彼の受賞の史実をはじめて明らかにすることができたことは大きな収穫であっ

た。

当時の歯磨には、「何々散」とか「何々香」といった商品名のものがあり¹²⁾、散薬や香水などにもそれと類似した商品名があって、それが歯磨であるかどうかは一般に区別しにくいので、その確認は歯学史資料図鑑¹²⁾で行なった。横田久七出品の「清命丹」は、同図鑑では歯磨となっているが、出品目録では単に「煉薬」となっているだけで、それがねり歯磨であったか、単なるねりぐすりであったのか不明である。

花紋賞牌の盛岡吉三郎および褒状の波多海蔵にしても、それぞれその成果が認められたのであろう。

5. 結 論

わが国の歯科医療制度が確立されていない明治10年(1877年)、東京上野で、政府主催の第1回内国勸業博覧会が開催され、歯科器材は医術上の用器、歯磨は化学上の製造物として出品された。同博覧会事務局編集の記録を主な資料として、これら歯科出品物を調査したところ、次の結論を得た。

(1) 歯科器材の出品者は13名で、1名だけが器具を出品したが、他の12名は義歯であった。当時は西洋歯科医学を導入したばかりで、義歯の出品物も木床義歯が多く、ゴム床義歯は2名だけであった。

(2) そのうち、渡辺良斉は龍紋賞牌を、竹沢国三郎および神翁金松は褒状を受賞した。

(3) 歯磨の出品者は21名で、そのなかのあるものあるいは他の数名のものは涅槃薬あるいは茶附子類を出品した。

(4) そのうち、盛岡吉三郎は花紋賞牌を、波多海蔵は褒状を受賞した。

文 献

- 1) 谷津三雄, 石橋 直, 鈴木 喬, 高野和夫, 中島友三郎, 後藤秀雄: 本邦における歯科医学史に関する研究, とくに第1回内国勸業博覧会の歯科出品について. 日大歯学, 42巻, 2号, 205-208, 1968.
- 2) 内国勸業博覧会事務局: 明治10年内国勸業博覧会出品目録, 追加編, 東2区12類ノ2, 1877.
- 3) 同上, 再追東2ノ10, 1877.
- 4) 同上, 愛知2ノ24, 1877.
- 5) 同上, 正誤ノ8, 1877.
- 6) 同上, 東2区1類ノ1-11, 1877.
- 7) 内国勸業博覧会事務局: 明治10年内国勸業博覧会出品解説, 第2巻, 第2区製品, 第1類化学製品, 196-221, 1878.
- 8) 同上, 第7巻, 第2区製品, 第12類医器療具, 19-29, 1878.
- 9) 東京教育博物館: 明治10年内国勸業博覧会賞牌褒状授与人名表, 東京府4-82, 1877.
- 10) 内国勸業博覧会事務局: 明治10年内国勸業博覧会審査評語, 上, 第12類医術上の用具, 365-370, 1877.
- 11) 同上, 第1類化学上の製造物, 25-30, (1877).
- 12) 鈴木 勝, 谷津三雄: 歯学史資料図鑑, 医歯薬出版, 東京, 1-6, 1976.
- 13) 内国勸業博覧会事務局: 明治10年内国勸業博覧会出品目録, 兵2ノ1, 1877.
- 14) 今田見信: 開国歯科医人伝, 1版, 医歯薬出版, 東京, 160-166, 1973.
- 15) 東京都歯科医師会: 東京都歯科医師会70年史, 東京都歯科医師会, 東京, 24, 1968.
- 16) 今田見信: 開国歯科医人伝, 1版, 医歯薬出版, 東京, 119-124, 1973.
- 17) 同上, 115-117, 1973.
- 18) 入歯々抜営業者人名, 歯科研究会月報, 47号, 39-46, 1894.
- 19) 愛知県鑑札所有者人名, 歯科研究会月報, 45号, 55-59, 1895.